

貧乏神

鹿児島県

ある村に貧乏な夫婦ふうふがいました。子どもがたくさんいて、食べる物もろくにありませんでした。それでも、どうか、子どもを育てていました。子どもが、

「おれがこんなに食べたなら、あとの分がなくなる」というと、親たちは、いつも、

「まだ、たくさんあるから、心配しんぱいするな」といって、食べさせました。

ある日のこと、とつぜん、天井てんじょうから貧乏神が落ちてきました。

「おまえたちは、いつも、まだたくさんある、まだたくさんあるという。そんなにあるなら、おれは、もうここにはおられん」

貧乏神はそういつて、家から出て行きました。それからは、夫婦は、だんだん金持ちになつていったそうです。

おしまい

村上郁再話

資料『久永ナオマツ姫の昔話 奄美大島』山下欣一・有馬英子／日本放送出版協会